

NO.31 ハンドボール

第70回国民体育大会 紀の国わかやま国体 ハンドボール競技会 戦評報告書

競技日	平成27年 9月30日	試合番号	B-0
種別・回戦	少年女子 準々決勝	会場	ビッグホール (B)

くまもとけん 熊本県			おおさかふ 大阪府			得点チェック欄	
17	6	前半	16	29	前半	<input type="checkbox"/>	
	11	後半	13		後半	<input type="checkbox"/>	
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>	
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>	
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>	
		第2延長 後半			合計点	<input type="checkbox"/>	
		7mTC			記録主任確認	<input type="checkbox"/>	

戦評	戦評委員氏名	横山 森川
----	--------	-------

準々決勝第4試合、大阪のスローオフからスタート。大阪は3番前田、4番山口の強力なロングシュートを武器に、一方熊本はポストを絡めた素早いパス回しを中心に攻撃を展開。大阪3番前田が鋭いカットインで先制。対する熊本も7番前崎のサイドシュートで反撃。8分、大阪3点リードで熊本のタイムアウト。その後も大阪7番吉岡、10番川上の速攻など、流れはそのまま大阪が掴む。熊本はオフenseファウルから連続した大阪の速攻を受けるが、熊本1番ゴールキーパー元松が好セーブを見せる。パスワークで崩したい熊本だが、大阪の堅い守備の前に攻めあぐね、大阪に7連続得点を許すなど、大阪が10点リードで前半を終える。

後半の序盤、熊本の連携したフォローディフェンスが機能し、大阪の攻撃をふせぐ。しかし4分、大阪2番藤村のポストプレーで熊本が退場者を出し、試合が動く。流れは大阪に傾くかと思われたが、1人欠く中で熊本4番嶋田のミドルシュート、11番岡村の速攻など執念を見せ、8点差まで縮める。その後も諦めずに攻守で足を止めない熊本だったが、シュート決定力の違いを見せた大阪が、盤石な試合運びで勝利を収めた。

送信担当記録委員

湯田 裕美

